

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191700158		
法人名	株式会社アライブ		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 グループホーム椿		
所在地	岐阜県恵那市山岡町下手向1620-2		
自己評価作成日	令和4年2月14日	評価結果市町村受理日	令和4年4月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2191700158-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和4年3月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ともに笑い、ともに感じ、ともに生きる」の理念のもと、当施設は認知症の方が車椅子となっても安心して生活して頂ける設備を整えています。看取り介護を含め、ADLの変化による居住環境を変えることなく、慣れ親しんだ場所で生活を続けて頂く事ができます。住む人、働く人、訪れる人、すべての人が心落ち着き癒され五感で想い感じる建物と庭園が一体となる和モダンの造りとなっています。昨今のコロナ禍においても自治会のご協力を頂き、地域行事への積極的な参加や地域の方を交えた施設行事を計画・実施し、入居者様と地域住民の皆様が顔馴染みの関係となれるよう、職員一丸となり取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、自然に恵まれた地にあり、和モダンな造りは人目を引く建物である。地域住民と信頼関係を築きながら、様々な交流も行っている。昨夏の豪雨による避難指示発令の際には、公民館の開放や事業所前の道路補修等、行政の迅速な対応を受けながら、地域の協力体制も強化されることとなった。コロナ禍の今、家族との面会に制限はあるが、窓越し面会、リモート、写真や文書送付、電話やSNSを活用するなど、多くの選択肢を用意している。また、職員は常に利用者の「想い」に真摯に向き合うケアを実践しており、家族から感謝の言葉が届いている。管理者は、職員のモチベーションを高めながら、より良い支援に繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ともに笑い、ともに感じ、ともに生きる」という理念を元に、地域の中でともに暮らす家族の様な関係性が作れるよう日々努めております。	利用者が笑顔で過ごせる場所として、常に利用者の「気持ち」を考えたサービスを心掛けている。その思いを共通認識できるよう理念の文言に込め、玄関ホールに掲げている。毎日、目にする日報用紙にも明記し、職員会議で理念に沿った支援ができてきているかを振り返っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設での行事や地域の行事にお互いに参加させて頂き、交流の機会を多く設けるよう予定しておりましたが、コロナ禍で実施できませんでした。	現在、地域との交流は中断しているが、自治会に加入しており、必要なことは自治会長から、直接、知らせがある。地域の草刈り活動は、事業所周辺を地域の一員として担っている。新型コロナ収束後には、地域交流の再開を予定している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方の理解を深めるために、新人研修の資料やマニュアル等を設置している事や、運営推進会議等で認知症についての質問があった場合は、説明をさせて頂いております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で入居者様の生活状況などをお伝えしています。また地域の方々のご要望やご意見をお伺いしサービスの向上に活かしていけるよう努めています。ご家族様に運営推進会議の資料を送付するとともに、会議への参加を呼び掛けています。	運営推進会議は、新型コロナ感染拡大状況に応じて、行政の指示も仰ぎながら書面開催や対面で行っている。書面開催では資料を構成メンバーに直接手渡し、意見を聞いている。災害時の連絡やホーム前の道路の補修対応では、会議で話し合いながらも迅速に地域の協力を得ることができている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所職員に運営推進会議への参加を依頼し、担当者と情報交換を行っています。また市主催の研修会やイベントに参加し、協力関係が築けるよう努めています。	今までは、運営推進会議の場や行政主催の会議、研修、管理者セミナーに参加し、情報交換をしていたが、コロナ禍で研修等はリモートでの参加となった。補助金申請の相談、手続き等は、書類持参で窓口に出向き助言を受けるなど、適切な運営ができるよう協力関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアル等を通じ職員に身体拘束について周知しています。やむを得ず行う場合は、ご本人様、ご家族様を含め担当者会議を開催し、解除に向け随時モニタリング、担当者会議等を行います。また運営推進会議においても毎回「身体拘束適正化委員会」の議題として取り上げさせて頂いております。	身体拘束適正化委員会は運営推進会議の中で開催している。職員の勉強会は毎月の職員会議で実施し拘束しないケアに取り組んでいる。事故報告やヒヤリハットの原因を分析し、年1回、これらを総括し拘束ゼロにつなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止のマニュアルと資料にて、職員へ周知するとともに虐待防止に努めております。		

岐阜県 グループホーム椿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者より、スタッフに対し、各種制度について説明を行うと共に、各自で自主的に地域で行われている研修への参加を促しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前にはご家族様に施設見学をして頂き、合わせて契約について十分な説明を行っています。不明な点があれば理解、納得していただき、ご了承いただけるよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の面会時に、入居者様に対する要望を確認。その内容を職員間で共有し、入居者様の生活がより良くなるよう努めております。また、意見箱を設置し、ご家族様や入居者様の意見等を頂けるように努めております。	運営推進会議の議事録、外部評価結果報告書を家族に配布している。定期的な通信の発行はないが、必要な連絡や案内は、その都度送り、個別に利用者の写真も同封している。ホームページで行事の様子を掲載したり、フェイスブックで配信するなど、色々な選択肢を設けて情報を発信し、家族との信頼関係作りに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会議の開催時には代表者、管理者を交え職員間での意見交換を行い反映しています。また、年2回の職員個別面談にて意見を聴取し反映しています。	管理者は、常に現場で職員の意見や要望に耳を傾むけ、ミーティングや定例会議では、代表者や管理者、職員がフラットな関係で意見交換し、職員の提案を運営に活かしている。年2回、代表者による個別面談があり、意見を聞きながら、働きやすい職場環境を整えている。定年制は廃止している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者、管理者が現場に入る事で職員の努力、勤務状況の把握に努めています。年2回の人事考課シートや個別面談を通じ、各自が向上心を持って働けるよう職場環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ一人一人に役割や課題を持たせ、責任を持って業務に当たるように努めています。また、介護マニュアルを作成し、併せてOJTの実践により質の向上に努めております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会やイベントの参加などを通じ交流させていただき、意見交換や外部との繋がりを持つ他、お互いが向上出来るような体制づくりに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にご本人様、ご家族様との面談を行い、要望等を確認し、安心して入居していただける体制づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にご本人様、ご家族様との面談を行い、要望等を確認し、安心して入居していただける体制づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の面談にてご本人様やご家族様の情報を収集し、アセスメントを行い、その時の状況にあったサービスを提供をさせていただき、希望に沿った支援ができるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にもかかわらず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「ともに笑い、ともに感じ、ともに暮らす」の理念の元に入居者様に安心して暮らせるような関係を築く事ができるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にもかかわらず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様との連絡を随時行い、面会や必要物品のお届けを依頼する中で、ご本人様のご様子等を知っていただけるよう関係作りに努めています。またビデオチャットを導入し、ご希望の家族様にはリモート面会を行っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様に面会、外出、行事の案内等を送付し、施設に訪れて頂く機会を確保し、今までのご本人様との関係性が途切れないよう支援に努めています。	感染予防対策の為、面会を制限しているが、家族の仲介で孫や親戚縁者とも、リモートやテレビ電話で、利用者顔を見て言葉を交わしている。電話の取り次ぎや中庭からの窓越し面会も実施している。また、車窓から景色を眺める程度ではあるが、馴染みの場所へのドライブも行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性の把握に努め、入居者様が孤立してしまわないように職員が間に入り、入居者様との関係性を構築できるような支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、お電話などで状況をお伺いし、ご本人様やご家族様の介護に対する、不安や悩み等のご相談を頂いた場合は外部機関とも連携し、いつでも支援が行えるように努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前の面談にて、ご本人様の暮らしの希望や意向の把握に努め、介護計画、サービスに反映していけるように努めています。	入居前に本人の生活歴やサマリー情報を職員間で共有している。入居後には、それらの情報を基に、本人が、やってみたい事や継続したい事等を聞き取り、介護記録への記載とケア計画に反映させている。数名の利用者は個々に新聞購読の希望があり、習慣の継続につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面談にて、ご本人様の生活歴、暮らし方をお聞きし、入居後も以前と同じような環境で生活ができるよう、馴染みの家具を持ってきていただく等の生活環境作りに努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所前の面談にて、ご本人様の以前の暮らし、心身状態の把握を行い、施設での生活が以前の暮らしに沿えるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議でご本人様、ご家族様のご意見、ご要望を反映し、介護計画を作成するように努めています。 今年度、面会禁止期間はご家族様に電話にてご意向を確認させていただきました。	介護計画の作成は、事前に、家族の意見や意向を面会時や電話等で聞いている。職員の意見や介護記録、利用者の状態を評価・分析した上で、計画を作成している。新規の利用者は仮プランで1か月支援し、その後、本プランを作成し適切なケアにつなげている。定期的にモニタリングし見直しを行っている。	昨年度の目標として、サービス担当者会議に家族も参加し、共に話し合いながらの計画作りを挙げていたが、コロナ禍で先送りとなっている。引き続き、家族参加の会議開催をめざした取り組みに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送り、または介護記録や業務日報等に記入し、職員間での情報共有を行う中で日々の実践や介護計画の見直しに努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者に関わりケアを行うなかで、既存のケア方法や関わりに固執しがちであるため、「他の方法があるのでは」と職員に課題として提案し、ユニットミーティングなどで検討させ、サービスの多機能化に取り組んでいます。		

岐阜県 グループホーム椿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人様が以前の生活により近い暮らしが出来るように地域資源を把握し、出来る限り利用させていただき、ご本人様の意向に添えるよう努めております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に主治医については継続か変更かをご家族様と相談をします。 定期受診への付き添い支援や月に1回の往診の手配等、ご家族様の希望を大切に、かかりつけ医との密な連携をとり、適切な医療を受けられるような支援を行っています。	従前のかかりつけ医、事業所の協力医、在宅医療医等、受診先は利用者、家族が選択している。受診は、家族同行とし、受診時には医師宛てに利用者情報をまとめた文書を渡し、医師とメールでもやり取りしている。場合によっては、職員が受診同行している。徐々に在宅医療医の往診に移行する人が多くなっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は日常の関わりの中で知れた情報を看護職と情報共有を行い相談しています。 常時、入居者様に適切な受診や看護が受けられるように努めております。また、看護師不在時はオンコールの体制も確立しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者様の状態変化に早期に対応し、入院期間の短期化に努めています。また搬送先病院等には、かかりつけ医や連携室などを通じ早期な情報提供を行い、受診や入退院が円滑に行われるよう努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重症化、終末期の方針をご家族様から聞き取り、施設で行える対応について説明しています。その後、状況に応じご家族様の意向を再度確認し、かかりつけ医や入院機関の協力のもと、施設での看取り介護、もしくは他施設や医療機関への転居をお願いしております。	重度化や終末期対応指針があり、本人、家族の意向に沿って看取りまでの支援をしている。利用者の状態に応じて家族に再確認をしながら方針を決めている。職員の看取り研修や事業所配置の看護師と医師との連携で体制を整えている。看取り後は職員のメンタルケアや振り返りをし、実践力の向上に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様の急変や事故発生に備え、緊急搬送等、随時看護師より指導、実技講習を定期的に行い実践力の向上に努めています。また緊急時マニュアルを作成し、有事には速やかに対応できるよう周知しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回(1回は消防署が立ち合い)の防災訓練を行い、災害時対応ができるよう徹底しております。また市の防災訓練に参加させていただき、地域からの協力が得られるような体制作りにも努めています。今年度の市防災訓練は地区では未実施。	避難訓練は利用者参加で実施し、地域からの駆け付け応援の協力が得られている。昨夏、夜間帯で豪雨による避難指示が発令され、区長からも公民館開放の連絡が入り、迅速な対応を受けることができた。停電時の非常電源装置設置は容量のこともあり、検討中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりの人格を尊重し、尊厳を守れるように日々傾聴し、その方に合った言葉かけを行うように努めています。行き過ぎた言葉かけを発見した際は、なぜそうなったかを職員同士で一緒に考えるようにしています。	職員は、常に認知症について学び、利用者への適切な声掛けや対応を心掛けている。管理者は、利用者の状態と職員の対応を見ながら、それぞれの思いに寄り添った対応ができていないかを問いながら、職員と共に話し合っている。トイレは広く、排泄用品は人目につかないようロッカーに収納している。排泄後の処理用として、下用タオル保温庫もある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の日常生活での思いや希望を傾聴し、ご本人様が自己決定ができるよう支援させていただいています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合ではなく、入居者様それぞれのペースや生活リズムを大切に、支援をさせていただいています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様それぞれに希望をお聴し、選択していただけるような支援を行う中で、その人らしい生活が出来るよう努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の配膳、下膳等その方に出来る事を行っていただくよう心がけ、楽しみある食生活を送っていただけるよう支援をさせていただいています。	チルドやレトルト食には豊富なメニューがあり、必要に応じて刻みや流動食に作り変えて提供している。検査で味付け、硬さなどをチェックしている。ご飯と汁物は職員が作り、庭で採れた野菜を食材に利用することもある。行事食や郷土食も取り入れ、食べる楽しみを増やしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の記録を基に、個々の栄養状態や体重を把握し、食事の提供を行っています。水分補給に関してはご希望ある方は好きな飲み物を用意し提供しています。また、個別のおやつなどもご家族様にお届けいただくようお願いしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い、口腔内の状態の把握が出来るよう努めています。また、口腔ケアが出来る限りご本人様で行えるよう支援をさせていただいています。		

岐阜県 グループホーム椿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様のそれぞれの排泄パターンを把握する事で排泄の失敗がないような支援を行っています。可能な限りトイレでの排泄をしていただくように、経過を観察し支援をさせていただいています。おむつ業者とも連携し、担当者と相談をすることで問題解決の参考としています。	排泄記録から、それぞれの排泄パターンを把握している。個々の尿量に合わせてパットを選択しながら、トイレでの排泄を支援している。排泄用品の取扱い業者からオムツやパットの適切な選択、陰洗方法の説明等を受けながら、適切な支援を学び、個々の排泄状態に合った支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄をチェック表にて確認し、毎日のラジオ体操、口腔体操等の運動に働きかける等、便秘への個々に応じた予防に取り組んでおります。また、薬に頼らない自然排便の促しについてユニット会議で勉強会を行いました。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には入浴日は決めさせていただいてますが、個々に合わせて随時希望を確認し、希望に沿えるよう支援させていただいています。	週2回の入浴を基本としているが、利用者の状態に合わせて柔軟に対応している。個浴槽と機械浴槽を備えており、2名の職員で浴室担当、脱衣室担当と分けて対応している。浴室、脱衣室も広い。シフト上、調整が困難な時もあるが、同性介助の希望にも応じている。体力を要する利用者の場合は、男性職員が介助し、安心・安全な入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様それぞれの生活リズムに合わせた生活を送っていただけるよう支援させていただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報のファイルを作成している事や看護師からの情報伝達が随時行われており、業務日報、毎日の申し送りにて周知徹底し、症状の把握に努めております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様一人ひとりの趣味や生活歴に合わせて、役割や楽しみごとを提供し、張り合いを感じられる生活ができるよう努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に地域のお祭りや、喫茶店、近くのお店に買い物に行く等、外出外泊ができるよう支援させていただいております。今年度はコロナ禍のため外出機会が少なくなりました。	コロナ禍の今、買い物や希望外出は自粛しているが、天気の良い日には事業所周辺を散歩したり、テラスや中庭で外気浴を行っている。ラジオ体操、リハビリ体操、リズム体操等、体を動かして身体機能低下の予防に努め、車窓からの花見ドライブ等を行いながら、利用者の気分転換を図っている。	

岐阜県 グループホーム椿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本は施設管理ですが、現金所持を希望される方には、ご家族様の理解を得たうえで、ご自分で管理して頂き、お買い物際にはご自分でお支払いいただくよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事前にご家族様に状況をご理解して頂いたうえで、ご本人様からお電話を直接させていただいています。また携帯電話の持ち込みも可能です。ビデオチャットでのリモート面会を楽しまれた方もおられます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は開放的で、各所に椅子やソファなどを設置しています。照明はすべて暖色系の物を使用し、外の光を感じられるように工夫をしています。庭園には椿と楓が植わっており、畑のスペースでは農作業をされる方もおられます。一年を通して四季を感じて頂ける工夫をしています。	共用空間の天井は高く、開放感溢れる環境である。畳コーナーは段差があったため、取り払ってソファを置き、寛ぎの場所に改造するなど、全館バリアフリーになっている。対面式キッチンの前には食卓テーブル、離れた場所には、1人用椅子やソファを設置し、好きな場所で新聞を読んだり庭を眺めたりできる。空調管理も適切に行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースでは一人の時間が確保できるように、テーブルから離れた所にソファを設置している事や気の合ったご利用者様同士で過ごす事ができるように座る位置等に留意しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族写真を飾ったり、家具は使い慣れた馴染みのある物をお持ち頂くようにし、新しい環境のなかでもご本人様が居心地よく過ごす事が出来るように努めております。	入居前に居室見学を行い、居室への持ち込み物品やレイアウトを家族と一緒に考え、心地良い居室作りをすることができる。職員はベッドサイドには物を置かないように配慮し、整理整頓を心がけている。新型コロナウイルス感染症予防のため、冬場は家族の協力を得て、居室に加湿器を設置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人様のご意思に対し、今ある「できる能力」を活かしながら、ご本人様の自立心が向上するような生活を職員と共に考え支援しています。		